

キリスト教保育

年主題

さあ、漕ぎだそう
奏でよう

第95回 夏期講習会
東京開催のおしらせ

聖書にきく
今月の聖句のおはなし
月下星志
礼拝のお話
加藤早恵



2024 JULY.

7

地と、それに満ちるもの、世界と、そのなかに住む者とは主のものである。

聖書 口語訳聖書・詩篇24篇1

詩編24編は、短いけれども、実に雄大な詩である。これは宮もうでのうたであるが、ダビデが周囲の敵を征服し、堅固なエルサレムの城を攻め落とした後、この首都を宗教的礼拝の中心として、神の都とするために、神の箱（契約の櫃）を迎え入れた時に、うたったものと言われている。そこには、主なる神ヤハウェを迎える喜びと畏敬の心が満ちあふれているのである。

1～2節は創造と神のみわざの賛美、3～6節は主の山に登るべき者のうた（悔い改めと信仰告白に当たるか）、7～10節は栄光の主（入城と来臨）への賛美である。数々の人生の悲哀や死に臨む度々の危難を超えて、なお、恩寵の神に救い出された感謝と賛美のうたなのである。

私たちの信仰にそのような喜びがあるだろうか。私たちの礼拝や賛美にこのような力強さがあるだろうか。信仰は教えるものではなく、身をもって示すものなのだ。ことばだけで語るものではなく、そのように生きる以外にないのである。子どもたちの前に立つとき、私たちはどのように信じて生きているか、喜びをもって仕えているか—を考えたいと思う。

今月の聖書の言葉は、神の創造の賛美であり、その中に守られて住む、自らのいわば信仰告白なのである。そのことばを語るその人自身の生きざまと信仰の告白があるのだ。そこにみことばによる交わりが生まれ、次々と新しくみことばによる出会いが起こるのである。聖書の話や言葉も、柔らかい心の畑にみことばの種を撒くことに他ならない。天地の主なる神の前に生き、賛美をもって歩む時、自己卑下ではなく自己の存在の意味とかけがえのない使命とを示されるのである。

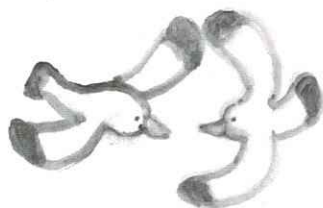
今月の聖書の言葉は、聖書全体の基本精神をあらわしている。それは、主なる神、栄光の王がエルサレムの門に入り、シオンに住まわれることは、全世界、万民の主であることを示すためであった。全地万有が主のものであるとは、創造の信仰とともに、この神は全世界の神であるということだ。創造信仰の賛美告白であるとともに、そのことが本当に成るために、神の約束成就への希望の信仰なのだ。

すべてのものの根底に、隠された神の主権と祝福を見いだしつつ、賛美と喜びのうた声をもって、日々の歩みを進めたいものだ。

（田井中 純作・執筆 当時・日本キリスト教団倉敷教会牧師）
1975年『キリスト教保育』誌6月号より

キリスト教保育

第664号7月号



年主題

さあ、漕ぎだそう 奏でよう

幼子とともにキリストへ
目次

〈巻頭言〉 遠くて近い親日国

ブラジルへの期待 工藤 章

〈論説〉 味と香りがもたらすものゝ栄養だけで

はない、食べることの意味 本多京子

〈小論〉 子どもと虫との関わり 鏑物太郎

図書紹介 木村麻紀 小野みどり

聖書に聞く・お話 月下星志

子どもと賛美するために

子どもの祈り

【カリキュラム】

7月 月のねがい表

心にとめて 高梨美紀

実践報告 若葉幼稚園

実践からの学び 久保小枝子

心にとめて 清水真理

実践報告 緑幼稚園

実践からの学び 染谷雅広

絵本のとびら 楠本みゆき

私たちの園では 赤坂洋子

〈連載〉 小さな庭だより 高浜真理子

〈連載〉 日々、子どもたちから

学んでいること 齋藤惇夫

目福口福耳福 広岡直太

礼拝のお話 加藤早恵

風 田島靖則 編集子 佐渡いずみ

連盟だより

カット 中畝治子 小鯛みのり 松成真理子 金井ユリ
表紙絵 田中慎子

43 42 36 34 33 28 26 25



66 65 55 53 50 46 44